

母校の高校教諭を迎えて 第6回自然科学部発表会開催

10月29日に、恒例の応用バイオ科学科・高等学校自然科学部合同発表会が開催されました。本学科からは、1年生の喜田亜由美さんが「分析化学基礎実験」、2年生の丸山貴浩さん・鳥谷部昌平さんが「Element Tower Blaster」、井上璃音さん・佐久間好支さん・石川龍生さんが「科学問題パズル」、3年生の迫田龍さんが「iGEMに参加して」、齋藤良平さんが「遺伝子に見る運動タイプ」、小野寺由貴さんが「アボカド+わさび醤油=大トロ?」について発表しました。

当日は、小野寺さんの母校である岩手県立一関第二高等学校から小田島久美先生(化学の教諭)も加わり、小野寺さんの発表に耳を傾けていました。高校生では、神奈川県立鎌倉高等学校1年生の伊藤りかさんが「目で見る慣性力」、朝倉裕隆さん・南條友輝さんが「超伝導」、秋元佑太さんが「金属管を落下するネオジウム磁石の運動」について、鎌倉高校教諭の木浪信之先生のご指導によるSPP(サイエンス・パートナーシップ・プログラム)の成果を発表しました。学生からも多くの質問があり、充実した発表会となりました。



発表会を終えて記念撮影

学園祭賑わう・・・利き酒

毎年恒例となった「利き酒」には、開始早々待ちかねていた人々が訪れて活気に満ちていました。今年は、純米酒と醸造酒の違いを味わう企画で全国30種類以上の日本酒を用意し、発酵を通して楽しみながら応用バイオ科学科を知ってもらいました。3年生の古田一馬さん、佐藤孝昭さん、2年生の加藤憲一さん、富国比呂夢さんが中心となり、今年の4月から、様々な酒蔵へ見学に行ったり、古い呑みをKAIT工房で作ったり、ポスターの作製や発表の練習を行ったりと熱心に頑張っていました。2日間で500人を超える来場者があり、学内の教職員の方々も毎年楽しみにしている様です。口コミで来る方も多く、学園祭になくてはならないイベントになってきました。

また今年も、蛭プロジェクトの成果発表がKAIT工房で行われました。3年生の久保田光さんや2年生の土生勇樹さんが中心となり、蛭を幼虫から育てて成虫にするまでの過程をわかりやすく説明していました。数人で始まったプロジェクトも、今や30名を超えるグループになりました。いつの日か、厚木に蛭を!



利き酒メンバーの集合写真

シアトル半年留学生からのメッセージ

今年度の半年留学(海外バイオ研修Ⅱ)には7名(過去最高!)が参加しています。そこで今シアトルにいる学生達に「シアトル留学の魅力」を語ってもらいました。

～シアトルからのメッセージ～

■ 寺嶋 霞さん

留学して入るESLの授業には、ベトナムや台湾など色々な国や年齢の人がいるので、色々な国や年齢の友達ができます。接点があなくても、Facebookを通してSSCCの生徒と友達になることができます。Facebookは、殆どの人が利用しているので登録しておくとうれしいです。

■ 柴田 明日香さん

私は海外に興味があり参加しました。実際は想像と違うことが多々あり、日々の生活が勉強になります。色々な考えの人に出会い、自分を見つめ直す機会も多く、また、視野を広げ自分を知るチャンスだと思うので、少しでも興味があるなら参加することをおすすめします!!

■ 新垣 薫さん

他国の人とたくさん交流できることです。アメリカの文化や他のアジアの文化を知ること、改めて日本の文化を客観的に見ることができました。

■ 前澤 祐花さん

一番の魅力は、新しい経験ができることだと思います。経験?と思う人もいるかもしれませんが、何をするか、何をしたいかによって、きっと得られるものは人それぞれ違うはずです!

■ 白石 有希さん

何と言っても生きた英語を学ぶことです。そして世界中に友人がたくさんできます。アメリカ人だけじゃない。台湾、ベトナム、バーレーン、エチオピア!そして毎日の生活が楽しい!環境を変えることはとても大切です。

■ 鶴田 純平さん

シアトルの人々は、わからないことを尋ねると、とても親切に教えてくれます。また、様々な行事に積極的に参加することにより貴重な経験ができると思います。

グラマラーの授業終了時に
担当の先生トニーと(SSCCにて)

バイオフィマリー活躍! 「生物版ロボコン」

香港で行われたバイオの国際コンテスト(アジア予選)にて、応用バイオ科学科の学生が発表を行ってきました。現地では、20分間の口頭発表を2日間で延べ4時間にわたるポスター発表およびディスカッションなどを全て英語で行う必要があるため、ほとんど眠らずに勉強していました。参加したメンバーは、他大学の学生たちと協力し合いながらも競い合ったり、企業にスポンサーになってもらうための交渉をしたり、北京大、清華大、ソウル大などの学生とディスカッションしたりと、充実した日々を過ごしました。コンテストに参加した迫田龍さんは「計り知れない経験だった」とコメントしています。他のメンバーの後藤裕夏さん、藤田龍太さん、島田洋匡さん、小林巧亜さん、白石有希さんも皆同様に貴重な経験をしたことと思います。来年は、世界大会へ!



ポスター発表の様子



ポスターの前で集合写真

バイオフィマリーがB科を語る!

バイオフィマリーだからこそわかる学科の魅力を語ってもらいました。

3年 本井 里奈さん

応用バイオ科学科は先輩との関わりが深いです。特に入学後すぐのフレッシュマンズキャンプでは、先輩と一対一で話す機会が設けられています。講義内容や履修登録の仕方など、実際に受講している先輩から話を聞くことで、よりスムーズに大学生活をスタートすることができました。

3年 本宮 由季さん

食品・環境・医療・遺伝子と様々な分野の授業があるため、入学時に何を学びたいか漠然としている人でも、授業を受けていく中で自分にあった分野を見つけることができます。

■ 小坂 裕さん

この留学プログラムを通して、アメリカと日本の文化の違いを自分の肌で感じることができました。実際にアメリカに来てみると、考えていたこと以上の出来事があり毎回毎回驚いています。たとえ英語ができなくても、伝えたい気持ち次第で生活を送ることができます。アメリカの文化を学びたい人にはお薦めのプログラムだと思います。



8月末に本学で行われた「英語でバイオ実験」の様子



「英語でバイオ実験」受講者の集合写真